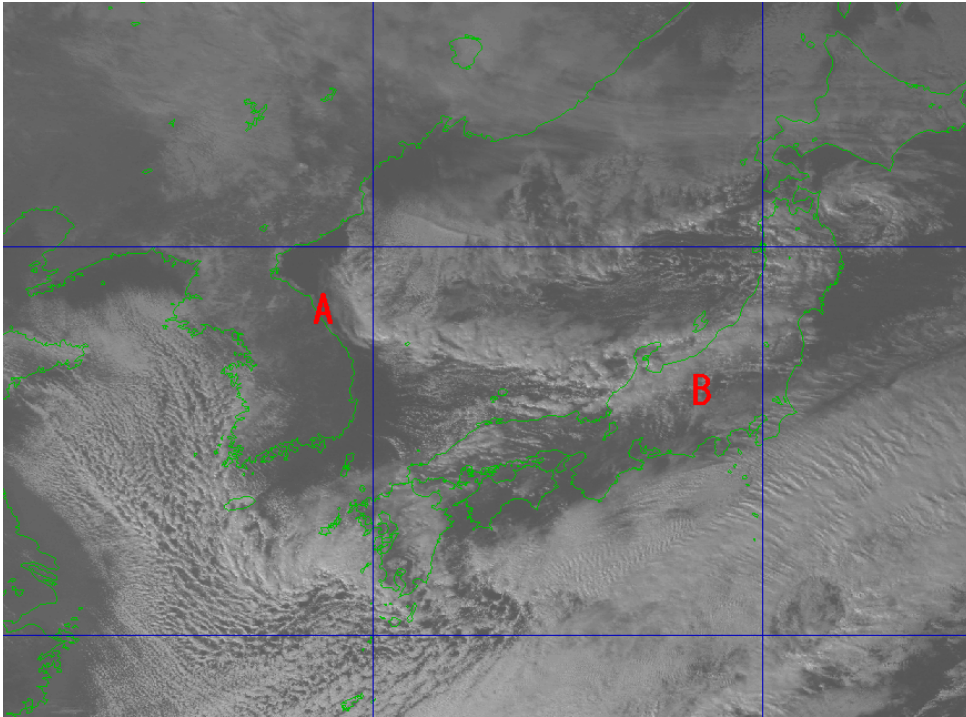


今月の気象衛星画像（2004年1月）



2004年1月24日15時の可視画像

日本海の帯状対流雲

暦で大寒にもなると、本格的な寒気の流入を示す筋状雲等が、衛星画像からもよく見られる。

写真は1月24日15時の可視画像である。ウラジオストク沖から日本海中部にかけて北から南南東方向に一部筋状の対流雲が現れており、北から南南東方向に風が吹いている。また、朝鮮半島南部東岸沖から山陰沖には別の東西方向の筋状の対流雲が見られ、西から東に風が吹いていることがわかる。

これらの2つの違った流れの合流する場所では、帯状の対流雲域（A－B）が発生し、東に伸びて北陸地方を指向している。この帯状対流雲は寒気の吹き出しに伴って現れて、この帯状対流雲の南縁には活発な積乱雲や雄大積雲が含まれ、この雲域が達した地点では激しい気象現象が起こることがある。

この日の1日の降雪の深さの合計は、新潟県高田 40 cm、富山市 27 cm、福井市 22 cmとなり、大雪となった。

（気象衛星センター）